〈 古典 入試必出 助詞プリント No. 1 〉

※このプリントは古文を訳す上で必要な知識を中心にまとめたものです。

助詞＝ 付属語で（単独で文節を構成できない）、活用のない語

ポイント
活用はない。
接続も主なものだけ覚えればよい。
最大のポイントは、その助詞の意味を把握して口語訳できること、これに尽きる。

〔種類〕＝全部で6種類

1 格助詞 …主に体言に付き、他の語との関係を示す。
2 接続助詞 …文と文とを接続し、両者の関係を示す。
3 副助詞 …上の語に意味を加え、副詞的に下へかかる。
4 係助詞 …上の語に意味を加え、下の活用語に勢力を及ぼす。（係り結びの助詞）
5 終助詞 …文末に付いて種々の意味を加える。
6 間投助詞 …文中・文末について、意味を加える。

Ⅰ 格助詞

の・が・を・に・へ・と・より・から・にて
して

［の・が］

A 連体修飾格 1、私〔 〕の本。我〔 〕が故郷。（目つ〔 〕毛）
B 主格 2、私〔 〕の読む本。 我〔 〕が作れる歌。
C 同格 3、白き鳥〔 〕の口と足と赤き、鳥ガ水の上にて遊ぶ。
D 体言の代用 4、この本誰〔 〕の？この歌は柿本人麿〔 〕がなり。
E 比喩（準体格） 5、（光源氏ハ）例〔 〕の、いと忍びておはしたり。

［に］

A 原因・理由 6、よろづのことは月見るに〔 〕こそ慰むものなれ。
B 強意（同じ動詞の間で） 7、ただ泣きに〔 〕泣く。
C 敬意 8、上の御前に〔 〕は史記といふ書をなむ書かせ給へる。

［と］

A 引用（「」でくくる） 9、「誰そ」と〔 〕問へば、「重親」と〔 〕答ふ。
B 強意（同じ動詞の間で） 10、生きとし〔 〕生けるもの、命あり。
C 比喩 11、敵の矢、雨と〔 〕降り来ぬ。

［より］

A 経由 12、（舟ハ）葦の中より〔 〕漕ぎ行く。
B 手段・方法 13、ただ一人、徒歩より〔 〕詣でけり。
C 即時 14、名を聞くより〔 〕やがて面影は推しはかる。

［にて］

※ 場所・時・手段・原因・理由・状態……
15、十二にて〔 〕御元服したまふ。
竹の中におはするにて〔 〕、知りぬ。（カグヤ姫ノ存在ヲ）
深き川を舟にて〔 〕渡る。

［して］

A 手段・方法 16、岩に松の炭して〔 〕書きつく。
B 共同者（動作の） 17、友とする人、一人二人して〔 〕行きけり。
C 使役の対象 18、兵士どもして〔 〕あとを追はす。

Ⅱ 接続助詞

ば・とも・ど・ども・が・に・を
て・して・で・つつ・ながら・
ものの・ものを・ものから

［ば］

A 順接の仮定条件（未然形＋ば） 19、雨降らば〔 〕、遠足は中止せむ。
B 順接の確定条件（已然形＋ば）
〈原因・理由〉 20、雨降れば〔 〕、遠足は中止に決定す。
〈恒時条件〉 21、財多ければ〔 〕、憂ひ多し。
〈偶然条件〉 22、柿食へば〔 〕、鐘が鳴るなり。法隆寺。

［とも・ど・ども］

A 逆接の仮定条件（終止形＋とも） 23、雨降るとも〔 〕、遠足は決行せむ。
B 逆接の確定条件（已然形＋ど・ども） 24、雨降れども〔 〕、遠足は決行す。

［が・に・を］ ※ 格助詞との区別に注意！

A 単純接続 25、命あるものを見るに〔 〕、人ばかり久しきはなし。（長生キスルモノ）
B 逆接の確定条件 26、めでたくは書きて候ふが〔 〕、難少々候ふ。（コノ絵ハ）（スバラシク）（欠点ガ）
志賀の都は荒れにしを〔 〕、昔ながらの山桜かな。（ノママノ）
C 順接の確定条件（原因・理由） 27、あまり憎きに〔 〕、その法師をばまづ斬れ。

［で］ ※ 未然形につく。

A 打消 28、勉強せで〔 〕、寝る。 働かで〔 〕、遊ぶ。

〈 古典 入試必出 助詞プリント No. 2 〉

［つつ］

A 動作の反復・継続

２９、野山に交(まじ)りて竹を取りつつ、よろづ(イロイロノ)の事に使ひけり。

B 並行

３０、幼子、乳を吸ひつつ臥せり。

（二つの動作の同時進行）

［ながら］

A 並行

３１、テレビを見ながら学習す。

（二つの動作・状態の並行）

B 逆接

３２、品高(身分)く生まれながら、身は沈みて位低し。

C 状態

３３、昔ながらの山桜かな。

［ものの・ものを・ものから］

A 逆接

３４、君に会はむと来しものから、かひもなく別れぬ。

Ⅲ 副助詞

だに・すら・さへ・のみ・ばかり・まで・など・し

［だに］

※ 軽いものをあげ、重いものを暗示する ＝［すら］

A 類推

３５、犬だに恩を知る。まして人は・・・・。

B 希望の最小限（最小限の限定）

３６、散りぬ(散ッテシマッテモ)とも香をだに残せ。梅の花。

［さへ］

A 添加

３７、日暮れて道に迷ひぬ。雨さへ降る。

［のみ］

A 限定（＝強意）

３８、今日は都のみぞ思ひやらるる。

［ばかり・まで］

A 限定

３９、月影ばかりぞ、（部屋ノ中ヘ）さし入りたる。

B 程度

４０、三寸ばかりなる人、竹の中にゐたり。

［など］

A 例示

４１、風の音、虫の音など、はたいふべきにもあらず。

［し］ ※ 係助詞「も」と併用して「しも」となることが多い。

A 強意

４２、世の中を憂し(ツラク耐エ難イト)とやさしと思へども、飛び立ちかね(デキナイ)つ。鳥にしあらねば。

（修学旅行ノ当日）今日しも雨降る。

Ⅳ 係助詞

は・も・ぞ・なむ・や（やは）・か（かは）・こそ

係り結びの法則 〈文末〉

ぞ
なむ
や（やは）
か（かは）
疑問・反語
強意
→（　　）形

こそ
強意
→（　　）形

［例外］

A 結びの省略

４３、われば(自分ダケガ)かり、かく思ふにや。（　　）

B 結びの消滅（流れ）

４４、たとひ耳鼻こそ切れ失すとも、命ばかりは助からむ。（省略）

※ 本来なら、「切れ失すれ」（＝已然形）となるはず。〝消滅〟

［特殊な用法］

A 逆接

こそ・・・已然形、・・・下へ続く

４５、若者は夢こそあれ、金はなし。

B 悪い予感

もぞ・・・・・連体形
もこそ・・・已然形

４６、傘もて来(こ)。雨もぞ降る。

（雀ノ子ヲ）烏などもこそ見つくれ。

［疑問の係り］ ※ 係り結びの一種。

〈文末〉

疑問語
たれ（誰）
なに（何）
など
いかが
→（連体）形

４７、いかがすべき。

［係助詞の文末用法］ ※ ［や・か］は文末に用いることがある

４８、わが思ふ人は（無事デ）ありやなしや。

Ⅴ 終助詞

な・そ・な・かな・よ・かし・ばや
なむ・てしか・にしか・もがな 等

［な］

A 禁止

４９、秘密を外に漏らすな。

［そ］

な・・・・・・そ（副詞）

５０、ほととぎす、な鳴きそ。

な来(こ)そ。

な為(せ)そ。

※この形でセットで用いる。
「な・・・そ」の間には連用形。
（カ変・サ変は未然形）

〈 古典 入試必出 助詞プリント No. 3 〉

［な］

A 詠嘆　51、花の色は移りにけりな。〔　　〕

［か・かな］

A 詠嘆　52、限りなく遠くも来にけるかな。〔　　〕

［よ］

B 呼びかけ 詠嘆　53、少納言よ。香炉峰の雪いかならむ。〔　　〕

［かし］

A 強意（念を押す）　54・歌をいま一度、詠めかし。〔　　〕

［ばや］　**※ 未然形に付く。**

A 自己の願望　55、かの物語を今一度、見ばや。〔　　〕

［なむ］　**※ 未然形に付く。**

A 他への願望（あつらえ）　56、いつしか（早ク）、梅咲かなむ。〔　　〕

［てしか・にしか（てしが・にしが）］

A 自己の願望　57、いかで（何トカシテ）このかぐや姫を得てしかな。〔　　〕
伊勢の海にあそぶ海人（あま）ともなりにしか。〔　　〕

［もがな（もが・がな・もがも）］

A 願望　58、心あらむ（情趣ヲ解スル）友もがな。〔　　〕
いまひとたびの逢ふこともがな。〔　　〕

［や］

A 詠嘆　59、荒海や佐渡に横たふ天の川〔　　〕

［を］

A 詠嘆　60、つひに行く道（＝死）とはかねて聞きしかど、昨日今日とは思はざりしを。〔　　〕

VI 間投助詞　や・を